



豪華! 2本立興行

波多利朗の Funky Goods

Part. 1

ネットワーク機能が強化された、
新たなる謎パ〜機?

Psion Series 5コンパチの 「Geofox-One」で日本語を使う



イラスト: Ree(スタジオ・ぶ〜)

Geofox-Oneのハードウェア環境については、Topicsで丹羽誠氏がレポートされているので、ここでは主にソフトウェア環境について解説する。

それにしても、購入には丹羽氏もご苦労されたようで、筆者は“駆け込み注文”ならぬ、駆け込み購入によって秋葉原のT・ZONEで入手することができた。

12月21日午前11時、秋葉原の T・ZONEで最後の1台をゲット!

1997年も押し迫った12月20日夜、柴隠上人 稀瑠冥 閻守(Kerberos)氏よりE-mailが届いた。それによると、某メーリングリストを読んでいたら、秋葉原のT・ZONEに、あのGeofox-Oneが入荷したとの報告が掲載されていたというのだ。

Geofox-Oneは、本誌1月号でも概要をご報告した、Psion Series 5コンパチの謎パ〜機(注1)である。以前より購入を検討していたが、注文するにはGEOFOX社へ英語で直接電話をしなくてはならず(ホームページにその旨が掲載されていた)、語学の才能が皆無である筆

者にとってはかなり高い障壁となっていた。しかし、そのGeofox-Oneが早くも秋葉原に入荷したというのだ。いやはや、最近のショップの対応の機敏さたるや、敬服させられてしまう。

金銭的な余裕はあまりないが、そんなことは言っていられない。話題の謎パ〜機であるからして、いち早くいじってみたいと思うのが人情だ。しかし、入荷したとはいえ台数はほんのわずかであり、しかもこの世界の魔人の情報収集能力は、ハイエナのごとく鋭い。グズグズしてなどいられない。ちょうど翌21日は、毎年恒例となっている、筆者の友人連中(魔人連中?)が集まってくる秋葉原オフの日(注2)である。ちょっと早めに外かけてゲットすることにした。

翌21日午前11時、T・ZONEアップル館地下1階の



写真3 同梱されてくるPsion Dacom Gold Card。その名のとおり、金ピカだ!

注1)Psion Series 5コンパチの謎パ〜機

Psion Series 5が採用しているOSと同じく、Psion Software社のEPOC32 OSを使用している。ただし、このマシンが謎パ〜機かどうかについては、議論の余地がある(ひょっとしたら、メジャーになるかも知れないしね……)。

注2)秋葉原オフの日

毎年、この時期に秋葉原で行っているオフ会。オフ会といっても、大したことをやるわけではなく、ショップをブラついてあれこれとマザーボードを冷やかしてから、古炉奈で情報交換を行うといった程度である。

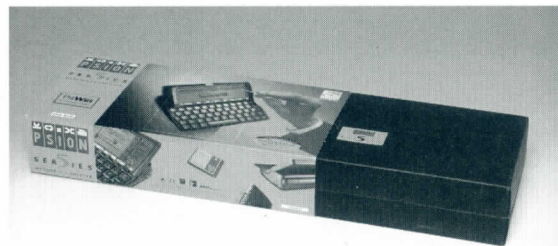


写真1 Psion Series 5の外箱は、デザインも洗練されている



写真2 Geofox-Oneの外箱。同じ箱でもここまで違う!

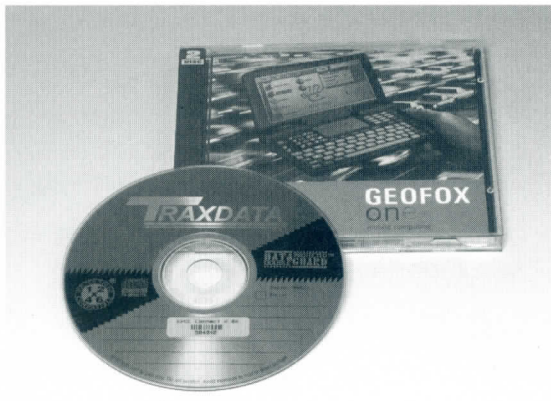
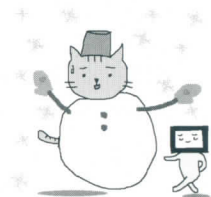
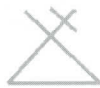


写真4 CD-Rメディアに焼き込まれたGeofox-One用ソフトウェア。怪しい……





注3)T・ZONE アップル館地下1階のモバイル関連売り場

T・ZONE ミナミの向かい側にある、旧T・ZONE本店。現在はマック関連の製品を専門に扱っているが、地下1階はモバイル専門の売り場となっている。ここには、Geofox-Oneをはじめとして、Psion Series 5、3a、3c、Sienaなど、けっこうマイナーな機種も揃っている。秋葉原マップでは、ブロックD 4に位置する。住所を以下に示す。

〒101-0021 東京都千代田区外神田4-4-1
TEL 03-3526-7720
FAX 03-3257-3017

注4)ニヤリと笑って

なぜニヤリと笑ったのかについては、大体予想がつく。この日は朝から、さぞかし同じような問い合わせが多かったのだと思う。

注5)いかにも“靴箱”である箱の材質がボール紙そのものといった感じで、飾り気もまったくない。もう少し疑ってもよいのではなかろうか？ こんな箱だから、謎バ〜機なんて言われてしまうのだと思う。まあ、それはそれで雰囲気を感じられてよいのだが……。

注6)内蔵メモリが4 MB
Geofox-Oneには、内蔵メモリが4 MBのものと16 MBのものが用意されている。

注7)Psion Dacom Gold Card

Gold Cardという名称のとおり全体が金色で、そこに黒いロゴが入ったド派手なカード。若干成金趣味的なところがある。

注8)Geofox-One CD-ROM
CD-ROMと書いたが、実際はTRAXDATAという会社のCD-Rメディアにソフトウェアを焼き込み、プリンタで打ち出したシールを貼り付けただけの、かなり怪しい感じのものである。このあたりは、謎バ〜機の雰囲気が出ていて好感が持てる。

注9)ACアダプタ

9V、1.1Aの仕様で、外側がプラス極性のドイツ製のゴツイアダプタである。このACアダプタは、電源コンセントに差し込むプラグの部分が着脱式になっており、各国のコンセントの形状に応じて取り替えて使用することができるといった、優れモノである。アダプタプラグは3個付属している。もちろん、ACアダプタは100～240V対応である。

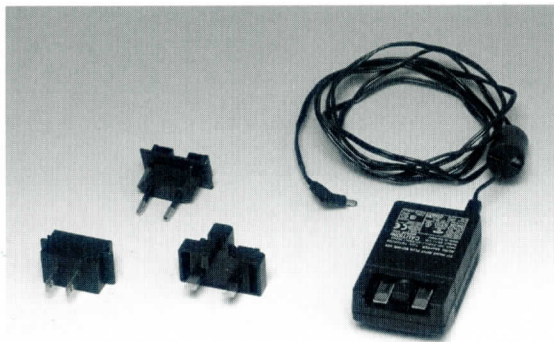


写真5 ドイツ製の優れモノACアダプタ。アダプタプラグが付いている。ただし、デカイ

モバイル関連売り場^(注3)に到着し、さっそく在庫の有無を聞いたところ、対応した店員さんはニヤリと笑って^(注4)「あと1台だけあります」。なんでも、5台入荷したばかりなのだが、すでに1台しか残っていないというのだ。

入手したGeofox-Oneは、Psion Series 5のような長方形の箱に入っている。といっても、Psion Series 5のほうはデザイン的にも洒落た立派なケースであったが、Geofox-Oneのほうは安っぽくて、いかにも“靴箱”である^(注5)(写真1、2)。

今回入手した製品は、「Geofox-One Professional Compact Computer 4 MB」であり、本体とPCカードモデム(Psion Dacom Gold Card Global Modem)がセット

になったものだ。本体内蔵メモリが4 MB^(注6)しかないのは若干心許ないが、この際仕方ないのであきらめることにした。本体のシリアル番号は次のとおりだ。

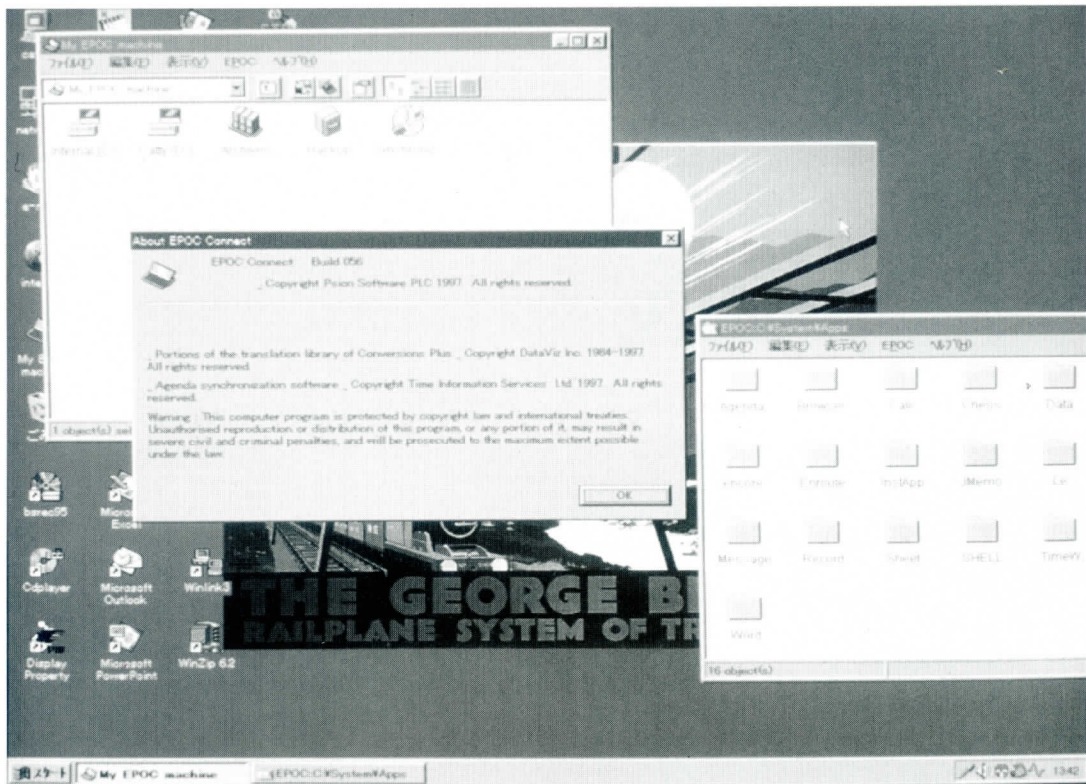
GEOFOX1-4MB-US
3501052

なお、購入した製品には、以下のものが含まれていた。

- ・Geofox-One 本体
- ・Psion Dacom Gold Card^(注7)(DATA/33.6k、FAX/14.4kのFAXモデムカード)(写真3)
- ・Geofox-One CD-ROM(PC本体との通信ソフト、EPOC Connect Ver2.02を含む)^(注8)(写真4)
- ・ACアダプタ(100～240V対応。アダプタプラグ3個付き)^(注9)(写真5)
- ・シリアルインターフェースケーブル(デスクトップPCとの接続用)
- ・ユーザーズマニュアル

デスクトップPCとの接続は非常に簡単

まずデスクトップPCとの接続方法であるが、これは非常に簡単だ。付属のシリアルインターフェースケーブルを介して、Geofox-OneをWin 95が動作するデスクトップPCに接続する。次に、同梱されてくる「EPOC Connect」CD-ROMを、CD-ROMドライブに挿



画面1 デスクトップPCとの接続ソフト、「EPOC Connect」の起動画面



入するだけでよい。あとはインストーラーが自動的に立ち上がり、接続ソフトのセットアップを行ってくれる。

その後、PC上でEPOC Connectを走らせてから、Geofox-OneのRemote linkをCableに設定する。

Remote linkは、Menu→Tools→Remote linkで設定できる。ボーレートは、9600～115200 ボーまでの5段階に設定可能である。通常は最高速度でかまわないと思うが、接続がうまくいかない場合には、このボーレートを落として調整する。

以上の手順で接続が完了すると、デスクトップPC上からGeofox-Oneの内蔵メモリが見えるようになるので、あとはドラッグ&ドロップでファイル操作を行えばよい(画面1)。

なお、購入したGeofox-Oneの内蔵メモリには、すでにさまざまなソフトがインストールされているので(注10)、デスクトップPCと接続したら早めにフルバックアップをとっておこう。

余談であるが、Geofox-Oneのシリアルコネクタの形状は、Windows CEマシンに採用されているものと外見上同一である(写真6)。しかし、試しにCE版モバイルギア「MC-CS12」のインターフェースケーブルを使用して見たところ、接続できなかった。

●フラッシュカードの導入

今回購入したGeofox-Oneでは、内蔵メモリが4MBしかないため、フラッシュメモリカードを導入することにした。比較的互換性が高いと思われる、EPSONのFLASH PACKERを使用して見たが、筆者の実験では、認識できるものとできないものが出てきてしまった。

まず、1994年に購入した5MBのFLASH PACKERは、破損しているわけではないのだがフォーマットを行うことができなかった。しかし、1997年に購入した6MBの製品では問題なく使用できた。両方とも中身はSunDisk社製のものであるから、原因は不明である(写真7)。

Geofox-Oneでフラッシュメモリカードを使用するためには、フォーマットを行う必要がある。フォーマットはGeofox-OneのSystemスクリーン上にて、Menu→Disk→Format diskを実行する。すると、フォーマットを行うディスクの選択画面が現れる。

Cドライブは内蔵メモリディスクとなっており、挿入したフラッシュカードはDドライブとして認識されているはずである。そこで、Dドライブを選択してフォーマットを行う。間違えて内蔵メモリをフォーマットしないように……。

各種アプリケーションソフトウェアの導入

Geofox-Oneは、Psion Series 5と同じEPOC32 OSを



写真6 形状的には同一のMC-CS12(左)とGeofox-Oneのシリアルコネクタ



注10)色々なソフトがインストールされているのでE-mailソフトやWebブラウザがインストールされている。

写真7 左がうまく動作しなかった5MBのフラッシュメモリカードで、右が問題なく使用できた6MBのフラッシュメモリカード。両製品ともEPSON FLASH PACKERだ

採用しているので、基本的には、Psion Series 5用のアプリケーションは動作するはずだ。

しかし実際には、動作するものとしらないものが存在する。Web上では、EPOC32 Geofox Version1.01と記載されているので、完璧な互換性があるというわけではないようだ。

ちなみに、Geofox-OneのSystemスクリーンから、Menu→Information→About systemを見ると、以下のようにクレジットされている。

Geofox-One Copyright Geofox Ltd 1997

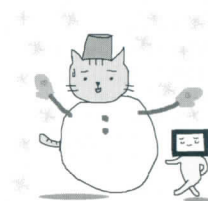
EPOC32 Platform Copyright Psion Software PLC 1997

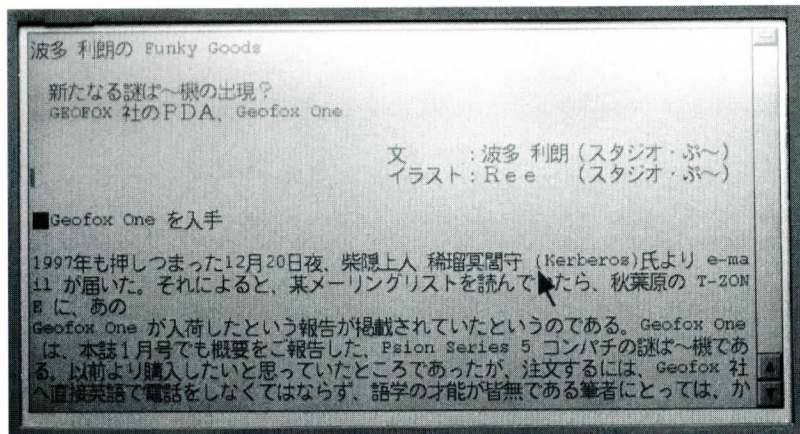
Version 1.01(146)-English(USA)

●JMemo preview release5の導入

「JMemo」はKoyama Tadayoshi氏が開発中の、EPOC32 OS上で動作する日本語エディタである。もともとは、Psion Series 5用に開発されたものだが、Geofox上でも動作させることが可能だ。

現在、preview release5がWeb上で公開されている。入手先は、下記のとおりだ。





画面2 日本語エディタ「JMemo」を使用して文書を編集する

<http://antenna.infocity.co.jp/psion5-3.html>

では、「JMemo」の導入手順を示そう。

①必要ファイルのダウンロード

上記URLから、JMemoに必要なファイルをダウンロードする。必要なファイルは、下記のとおりだ。

- ・JMemo5.zip：日本語テキストエディタ JMemo preview release 5
- ・jiskan.zip：フォントファイル (Rev.2)
- ・jisyo.lzh：かな漢字変換用辞書 (Rev.1)

なお、ここに示したファイルのバージョンは、1998年1月1日現在のものである。本ソフトは現在も開発中なので、最新のものを入手するよう心がけたい。

②ファイルの解凍と転送

入手したファイルを解凍し、EPOC Connectを使用して Geofox-One 本体のフラッシュメモリカード上へ転送する。

以下は、Geofox-One の D ドライブとしてアサインされているフラッシュメモリカード上へインストールする手順である。

JMemo5.zip を解凍すると、下記のファイルが得られる。

- ・JMemo.aif
- ・JMemo.app
- ・JMemo.rsc
- ・KDil.dll

以上のファイルを、Geofox-One の D:\System¥Apps¥JMemo¥ フォルダへ転送する^(注11)。

jisyo.lzh を解凍すると、下記ファイルが得られる。

- ・jisyo.dic
- ・jisyo.idx

以上のファイルを、Geofox-One の D:\System¥Dictionary フォルダへ転送する。

jiskan.zip を解凍すると、下記ファイルが得られる。

- ・jiskan.gdr

以上のファイルを、Geofox-One の D:\System¥Fonts フォルダへ転送する。

③ JMemo の起動

System スクリーン上で Extras ボタンを押すと、jmemo のアイコンが現れるのでそれを起動させる(画面2)。

テキストファイルビューワ LogExpress for PSION の導入

「LogExpress」は、Psion Series 5用で作成された日本語テキストファイルビューワである。1997年12月30日にリリースされた「とりあえず版06」では、「Geofox に対応したつもり」との記述があったので、さっそく導入してみることにした。

①必要ファイルの入手

LogExpress for PSIONは、下記URLからダウンロードすることができる。

<http://spock.vector.co.jp/authors/VA003647/>

ダウンロードしたアーカイブファイル(leps5-06.zip)を解凍すると、下記ファイルが生成される。

- ・Le.app
- ・Le.rsc
- ・Le.txt

LogExpress を使用する場合には、プログラム本体のほかに、フォントファイルも必要である。フォントファイルは、横16ドット固定、縦11、12、14、16ドットのfontx形式のフォントに対応している。今回は、オカヤシステムウェアが発売している「HP200LX日本語化キット」に同梱されているフォントを流用してやることにした。

「HP200LX日本語化キット」には、8、11、16ドットのフォントファイルが格納されているが、16ドットフォントを使用することにした。用いるファイルは以下のとおりだ。

- ・LXHN16X FNT 4,113 10-25-94 1:00a : 16ドット 半角フォント
- ・LXZN16X FNT 221,394 10-25-94 1:00a : 16ドット 全角フォント

②ファイルのインストール

- ・プログラムファイルの転送

解凍した LogExpress のプログラムファイルを、Geofox-One 本体内部ドライブ (Cドライブ) の C:\System¥Apps¥Le に転送する^(注12)。

注11) D:\System¥Apps¥JMemo¥ フォルダへ転送する
今回はJMemoをDドライブにインストールしたが、もちろん、内蔵メモリに余裕がある場合には、Cドライブ中へインストールしてもかまわない。

注12) C:\System¥Apps¥Le に転送する
筆者のGeofox-Oneでは、内蔵メモリが4MBしかない。そこでメモリ節約のために、最初はLogExpressをDドライブにインストールしてみたが、うまく動作しなかった。



・フォントファイルの転送

まず、16ドットフォントファイルの半角ファイル名をhan.fon、全角ファイル名をzen.fntとリネームする。これらリネームしたファイルを、C:\dataにコピーする。

以上で、ファイルのインストールは終了である。

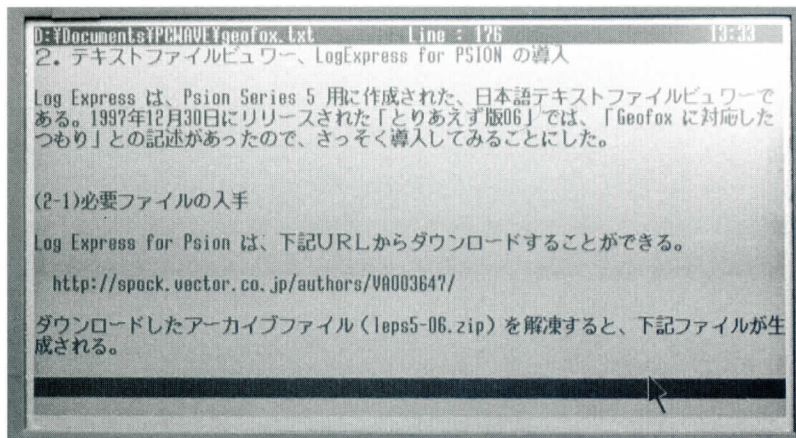
なお、現在のバージョンでは、LogExpress関連ファイルは内蔵のCドライブに格納する必要がある。

③起動方法

Geofox-OneのExtrasボタンを押すと、Le起動用アイコンが現れる。さらにこれをグライドポイントでタップすると、Log Express が起動してファイラー画面が現れる。このファイラーで、閲覧したいテキストファイルを選択すればよい。

なお、Ctrl+Shift+Dを押すことによって、Dドライブに移り、Ctrl+Shift+Cを押すことによって、Cドライブに移動する。

ファイルの表示スピードは、驚くほど高速だ。またGeofox-Oneの大きな画面に16ドットのフォントで表示するため、非常に見やすくなっている。11ドット版でも試してみたが、やはり使用するのであれば16ドット版のほうが格段に快適だ(画面3)。



画面3 日本語テキストファイルビューワ「LogExpress」の表示画面

れるMAKEGAME.EXEを、DOSマシン上で実行することによって行える。

なお、DOOMを持っていない人のために、コンバート済みのWADファイルがgamewad.zipとして提供されているので、とりあえずこちらをダウンロードしてプレイしてみるとよいだろう。

②ファイルのインストール

ENCOREは、WADファイルも含めるとかなりの容

注13「DOOM」

大ヒットしたPC互換機用のDOSベースのゲーム。3D空間を移動して、ただひたすら敵を殺りまくるというもの。ハマってプレイに熱中すると、車酔い似た症状を起こすという副作用付き。

「DOOM」もどきのゲーム「ENCORE」の導入

「ENCORE」は、大ヒットしたDOS版のゲーム「DOOM」(注13)のPsion Series 5版である。このソフトもGeofox-Oneで動作させることが可能だ。さすがにデスクトップマシンでプレイするようなスピードは得られないものの、雰囲気は十分に伝わってくる。

①ファイルのダウンロード

ENCOREの1998年1月2日現在のバージョンは、0.20ベータであり、プログラムおよびデータファイルは、下記URLからダウンロードすることができる(画面4)。

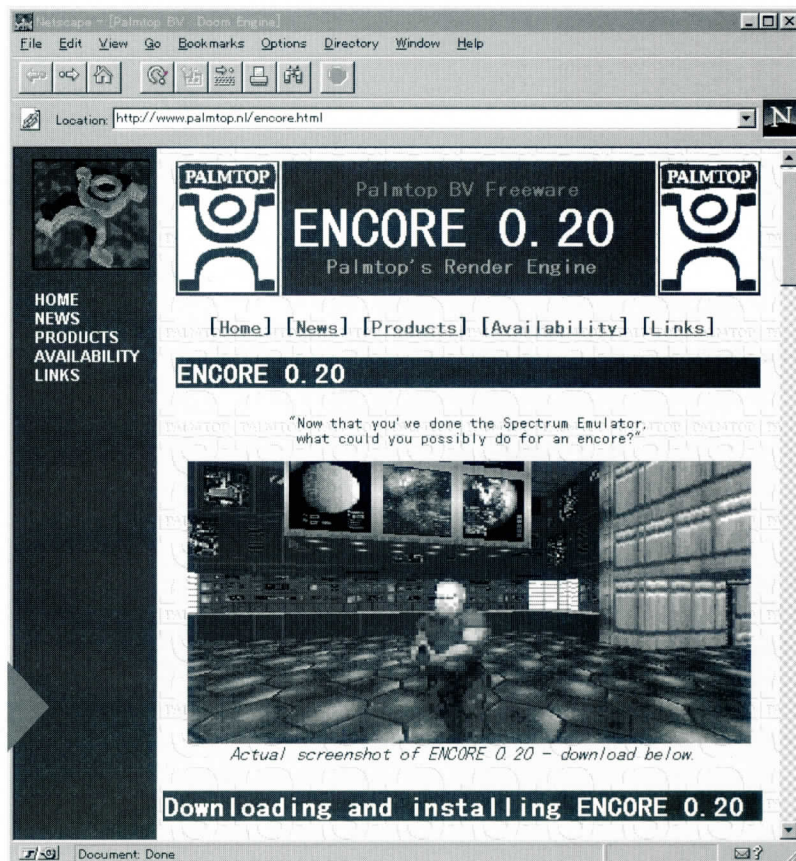
<http://www.palmtop.nl/encore.html>

このページには、実際にPsion Series 5でプレイしているキャプチャー画面が表示されており、そのあまりのリアルさに驚かされる。

必要なファイルは、以下のとおりである。

- ・encore02.zip : プログラム本体ファイル
- ・makegame.zip : DOS版DOOMのWADファイルをENCORE用にコンバートするソフト
- ・gamewad.zip : ENCORE版WADファイルサンプル

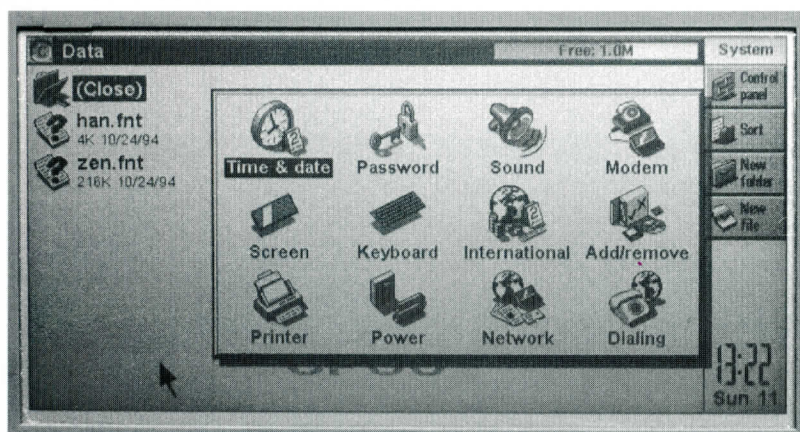
ENCOREでは、DOOMのデータファイル(WADファイル)をコンバートして使用することが可能である。このコンバート作業は、makegame.zipを解凍して得ら



画面4 「ENCORE」を掲載しているWebページ



画面5 DOOMもどきのゲーム「ENCORE」のプレイ画面



画面6 こちらのコントロールパネルから通信環境の設定を行う

量となるため、4MB版のGeofox-Oneでは内蔵メモリにインストールするのはかなり厳しい。そこで、今回はDドライブのフラッシュメモリカードにインストールした。

インストールの手順は、まずD:\System\Apps\Encoreというフォルダを作成し、そこへ下記ファイルをコピーする。

- ・Encore.aif
- ・Encore.app
- ・Encore.rsc
- ・Game.wad
- ・Logo.pbm

以上のファイル容量は、合計で約860KBとなる。

③プログラムの起動

Geofox-OneのExtrasボタンを押すと、ENCOREのアイコンが現れるので、それを押してプログラムを実行する。タイトル画面が表示された後、おなじみのDOOMのプレイ画面が現れる(画面5)。動作はさすがに重い。カーソルキーでの移動も、かなり慣性がある感じを受ける。

それにしても、このようなPDAで、ここまで3D表

示を可能にしてしまうというのは驚異である。

なお、内蔵ドライブ(Cドライブ)の空き容量が1MB以下の場合には、メモリ不足が多発するので、なるべくCドライブは空けておいたほうがよいだろう。

PCカードモデムとPIAFSカードのセットアップ方法

Geofox-Oneでは、Psion Series 5と比較して、通信環境が強化されている。Psion Series 5では、PCカードモデムは使用できなかったが、Geofox-OneではPCMCIA Type II スロットを実装しているので、汎用のPCカードモデムを利用することが可能だ。

また、インターネットメールやWebブラウザなども本体に内蔵されているため、セットアップを行えば簡単にインターネットへ接続できる。ここでは、まずPCカードモデムのセットアップ方法について簡単に述べた後、Geofox-OneでPIAFSカードを認識させる方法について解説する。

なお、GEOFOX社のWeb上のFAQ集に掲載されている情報では、同社が動作確認を行ったPCカードモデムとして、下記のものが記載されている。

Psion Dacom Gold Card Global
TDK DF2814
IBM 14.4 FaxModem

①PCカードモデムのセットアップ

PCカードモデムをGeofox-OneのPCMCIAカードスロットに挿入して、モデムの設定を行う。

まず、SystemスクリーンからMenu→Tools→Control panelを選択する。コントロールパネルウィンドウが開くので(画面6)、Modem セクションを選択する。

Modem setting のダイアログボックスが開くので、同梱されてきたPsion Dacom Gold Card Global モデムを使用する場合には、Current modem でPsion Dacom Modemを選ぶ。その他のモデムの場合にはNewを選択して、新規にセットアップ項目を作成する。

このときモデムの接続ポート指定^{注14)}は、Connect using Serial(port1)を指定する。PCMCIAカードスロットに挿入されたPCカードモデムは、シリアルポート1として認識されるからである。

モデムの通信スピードの項目は、使用するモデムに応じて調整する。もしうまく動作しない場合には、ここで指定しているスピードを落とすとうまく繋がる場合もある。

②通信環境の設定

次に、コントロールパネルのなかにあるDialing セクションの設定を行う。ここでは、Location→Newを

注14)モデムの接続ポート指定

モデムの接続ポート指定としては、下記の設定が選択できる。

- ・Serial(port0)
- ・Serial(port1)
- ・Infrared

また、ボーレートは110、150、300、600、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600、115200から選択できる。



選んで、国コード、エリアコードなどの設定を行う。

最後に、同じくコントロールパネル中にある Network セクションの設定を行う。ここでは、ダイヤルアップを行う場合のプロバイダーアクセスポイントの設定や、ログインアカウントの指定を行う。ログインアカウントの指定^(注15)については、とりあえず接続時に入力する指定でかまわないだろう。また、IPアドレスやDNSアドレスの指定もサーバからゲットする設定でOKである。

以上で、PC カードモデムの設定は終了する。

なお、PC カードモデムを使用して通信を行う場合には、AC アダプタを必ず使用するようにとマニュアルに記載されている。これを遵守しないとバッテリーがすぐに消耗してしまうとのこと。しかし、モバイル環境を考えた場合、AC アダプタを使用しなくてはならないというのは、かなり困ったものである。このあたりの省電力対策が改善されることに期待したい。

③ PC カードモデムの認識実験

筆者宅にあるPCカードモデム類をGeofox-Oneに装着し、実際に通信できるかどうかの実験を行ってみた(写真8)。まず最初に、デフォルト状態のGeofox-OneにPCカードモデムを装着し、上記①項および②項で示したセットアップを方法で実験してみたところ、下記のような結果となった。

《使用できた PC カードモデム》

- ・ Psion Dacom Gold Card Global
- ・ TDK DF1414 DATA/FAX Modem
- ・ NEC PC-9801N-J05 DATA/FAX Modem
- ・ NTT DoCoMo MOBILE DATA CARD 96P1(1997年9月製造)^(注16)(写真9)

《使用できなかった PC カードモデム》

- ・ Megahertz XJEM1144
- ・ Megahertz XJ1144
- ・ NTT DoCoMo DATA/FAX CARD 9600 Mark II (1996年4月製造)
- ・ NTT Personal 32KパルディオカードDC-1S(1997年3月製造)

PC カードモデムメーカーとして有名な Megahertz 社の製品と、省電力設計で使い勝手のよいパルディオカードが認識できないという結果になった。

筆者は、HP200LXでもパルディオカードを使用したPIAFS通信を行っており、これが使用できないのは困ったものだと思っていた。そんなとき、丹羽誠氏がPIAFSカードのセットアップ方法について教えてくれたのである。

以下に、その手順を示す。

① スクリプトファイルの修正

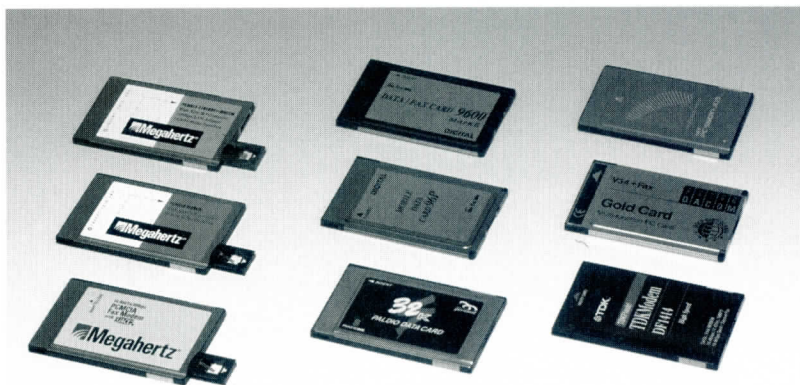


写真8 今回、認識実験を行ったPCカードモデム群。ただし、Megahertz XJ2288(左中央)については、時間の余裕がなかったため実験できなかった

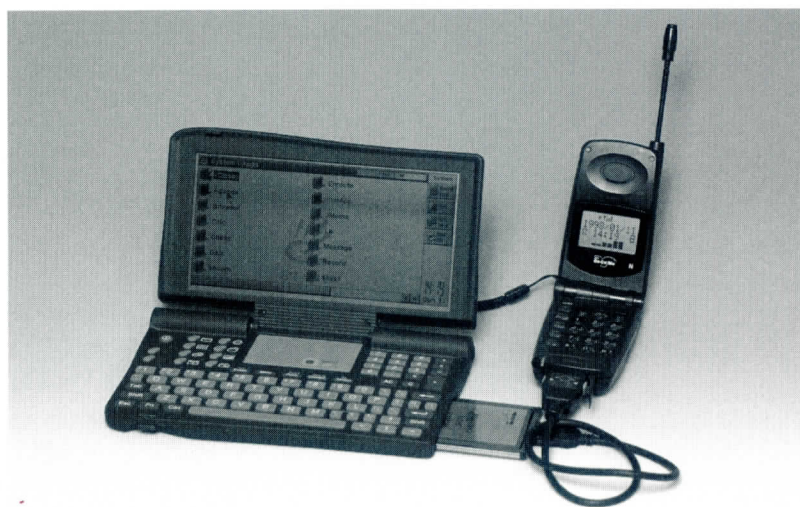


写真9 Geofox-One でデジタル携帯電話によるインターネット接続を行う

C:\System¥Data¥Generic.scrの一部を、以下のよう
に修正する。

《オリジナルファイル》

```
fclassok:
    SEND modem_init1$+<0x0d>
    WAIT 3
    {
        "OK" initok
    }
    GOTO dropdtr

initok:
    SEND "AT"+modem_init2$+<0x0d>
    WAIT 1
    {
        "OK" configok
    }
```

注15)ログインアカウントの指定

スクリプトを組めば、オートログインも可能である。

注16)NTT DoCoMo MOBILE DATA CARD 96P1 (1997年9月製造)

NTT DoCoMoの携帯電話接続用PCカードは、最新の96P1は使用できたが、少し前に発売された9600 Mark IIは使用できなかった。

これと同じ現象は、NECのWindows CE版モバイルギア「MC-CS12」でも発生した。キーボードタイプのモバイルギア「MC-MK22」では9600 Mark IIは問題なく使用できたが、MC-CS12では動作しないのである。このあたり、微妙な相性問題があるようだ。



GOTO dropdtr

《修正後のファイル》

```
fclassok:
    SEND modem_init1$+<0x0d>
    WAIT 3
    {
        "OK" configok
    }
    GOTO dropdtr

initok:
    SEND "AT"+modem_init2$+<0x0d>
    WAIT 1
    {
        "OK" configok
    }
    GOTO dropdtr
```

修正は、fclassok:ラベル中のinitokをconfigokと書き換えるだけである。

initok:ラベルでモデムに送出している"AT"+modem_init2\$ コマンドは、スピーカー制御・音量の設定コマンドATLXMXとなっている。DC-1SなどのPIAFSカードではスピーカーの制御コマンドはエラーを返すため、ダイアリングする前に停止してしまうのである。

書き換えたスクリプトではControl Panelでのスピーカー制御の設定は無視されるが、Init.stiringでマニュアル設定することが可能である。

②モデムの設定

次に、モデムの設定変更を行う。

まず、Control Panelを開いてModemを選択する。ここでCurrent modemを「Hayes compatible modem」に、またHandshakingでFlow controlの項目を「Hardware (RTS/CTS)」に設定して、Terminal detect(DSR/DTR)とCarrier detect(DCD)のダイアログボックスのチェックを外しておく。

次に、Control PanelのDialingを選択する。ここで、Locations→Editとして、Dial settingsのウィンドウを開く。このなかのWait for dial toneのチェックを外す。

以上でモデムの設定変更は終了し、これでGeofox-OneでもPIAFSによる通信が可能となる。

なお、上記の修正、設定変更を行ったあと、再度筆者の手持ちのモデムカード類を再度テストしたところ、下記の結果となった。

《使用できたPCカードモデム》

- ・Psion Dacom Gold Card Global

- ・TDK DF1414 DATA/FAX Modem
- ・NTT Personal 32K パルディオカード DC-1S(1997年3月製造)
- ・Megahertz XJEM1144
- ・Megahertz XJ1144
- ・NEC PC-9801N-J05 DATA/FAX Modem
- ・NTT DoCoMo MOBILE DATA CARD 96P1(1997年9月製造)

《使用できなかったPCカードモデム》

- ・NTT DoCoMo DATA/FAX CARD 9600 Mark II (1996年4月製造)

以前の設定では使用できなかったPCモデムカードが、スクリプトの修正と設定の変更によって使用可能となった。

Webブラウザの起動方法とE-mailの設定

Geofox-Oneには、CドライブにWebブラウザがインストールされており、キーボード上部にある「地球儀」のマークを押すことによって起動できる。このブラウザは、Geofox Webと呼ばれているもので、内蔵されていたプログラムのバージョンは「Version1.00(43)」だった。

Geofox Webでは、テキストのみならず画像表示も可能となっている。Menu→File→Open locationを指定するとURLを入力するウィンドウが開くので、閲覧したいWebのURLを入力するだけでよい。あとは自動的にモデムを使ってダイヤルアップを開始し、プロバイダーへの認証手続きが終わればWebサーフができるようになる。

当然のことだが、このブラウザは日本語に対応していないため、日本語はすべて文字化けしたかたちで表示される。また、フレームなど高機能なタグには対応していないが、実用上十分な機能は備えている(画面7、8)。

なお、Menu→Tools→General preferenceで、キャッシュサイズやホームページを指定することができる。Cドライブの空き容量に余裕がない場合には、キャッシュサイズを小さくしておくほうがよいだろう。

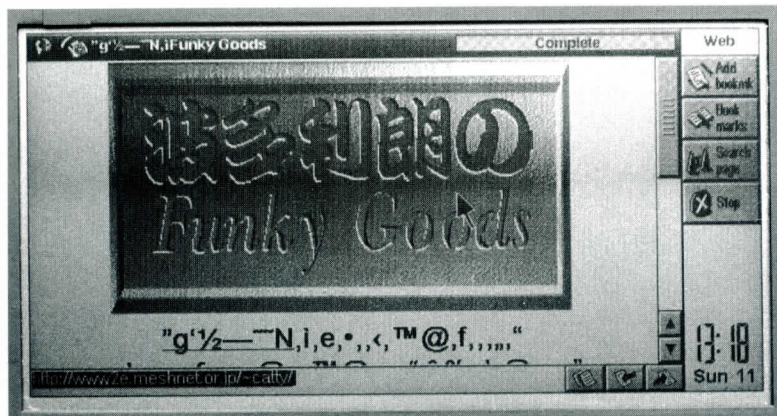
●E-mail機能

E-mailの設定も簡単である。ただし、日本語には対応していない。

E-mailソフトは、本体キーボード上部にある「手紙」マークのボタンを押すことで起動する。このメーラーは、Geofox Emailと呼ばれるもので、プログラムのバージョンは「Version1.0(36)」であった。

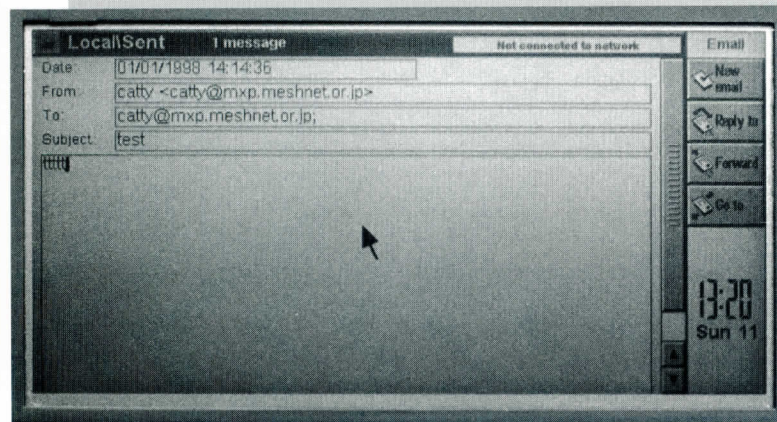
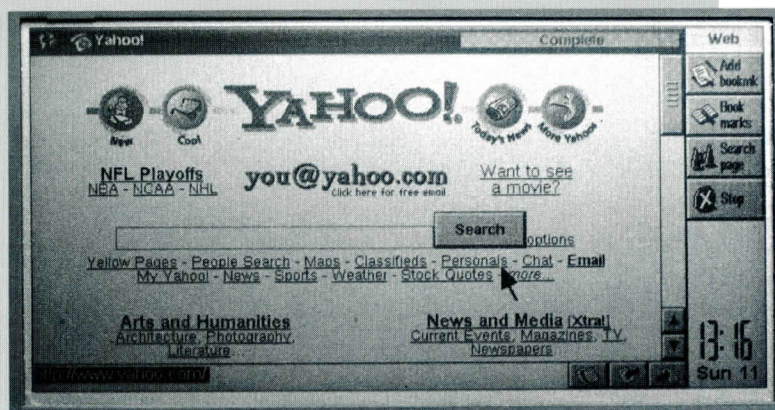
E-mailの環境設定は、Menu→Tools→Settings→Emailで行う。設定には、OutgoingとIncomingの2つのセクションがあるので、それぞれにE-mailアドレ





画面7
Web ブラウザを使用して筆者のホームページを表示してみた

画面8
こちらは YAHOO! USA の表示画面だ



画面9
E-mailソフトによるインターネットメールの表示

ス、SMTP サーバ名称、POP3 サーバ名称、メールアドレス、メールパスワードなどを設定する。メールのやり取りを行う場合には、自動的にダイヤルアップ接続が行われる(画面9)。

購入の際には、“借金してでも” 内蔵メモリが16MBの機種を！

Geofox-Oneの魅力は、なんといってもLCD画面の広さであろう。Psion Series 5 よりも縦方向に80ドット多いため、表示できる情報量が格段に違ってくる。

また、PCMCIA Type II スロットも内蔵されているので、拡張性にも富み、いろいろと遊ぶことが可能だ。グライドポイント付きのPDAというのも、珍しくてよい。

Psion Series 5 と互換のOSを採用しているのも、今後の日本語環境の構築に期待したいところである。

ただ、キーボードはボタンタイプで、キーピッチはそこそこ確保されているものの、押した感じが“ぶによぶによ”していて頼りない。この点は、Psion Series 5 にはかなわない(注17)。

最後に一言。Geofox-Oneを購入されるのであれば、借金してでも内蔵メモリが16MBの機種を購入されたい……。

© Geofox-One Professional Compact Computer
価格：12万8000円(4MB)、13万9800円(16MB)
問い合わせ先：T・ZONE アップル館
TEL 03-3526-7720

注17)Psion Series 5 にはかなわない

どこかのフォーラムの書き込みで読んだのだが、Psion Series 5 のキーボードだけを、各種PDAとの接続ケーブルとドライバを添付したかたちで単体販売すれば、きっと爆発的に売れるのではないか——というようなことが書かれてあり、なるほどと思った覚えがある。

たとえば、現在筆者はHP200LXにNewtonキーボードを接続して使っているが、Psion Series 5 のキーボードが接続できれば、携帯にはより便利になるだろう。どこかのメーカーが製品化してくれないだろうか？